

肺

六年

画数 9
筆順
オン
クシ

肺 肺 肺
ハイ
ハイ

成り立ち



物を売ったり買ったりして、物の「出し入れ」をする市場の「市」という字と、肉体の部分の名前につける印の「月」とを組み合わせて作った字です。

「空気を「出し入れ」する器官」である「肺臓」を表したものです。ふつうは単に「肺」と言います。【例】肺病、肺炎、肺結核、肺活量、肺門、肺葉。
「心臓」が「心」という意味に使われるように、肺も「心」の意味に使うことがあります。【例】肺肝を砕く（心を砕く）。

使い方

▽ぼくはスポーツをやっているので、普通の人より肺活量が大きいようです。この前、肺活量の検査をやったら、平均値をだいぶ上まわっていました。
▽わたしのおばあちゃんは、風邪をこじらせて肺炎にかかってしまいました。お医者さんに、絶対安静にしているように言われて、二週間寝ていました。でも、それでよくなって、今はとても元気で、皆ホツとしました。

熟語例

- ▽肺病（肺の病気。おもに肺結核のことをさします。）
- ▽肺炎（肺に、肺炎菌が入って起こる病気）
- ▽肺結核（肺に、結核菌が入って起こる病気）
- ▽肺活量（思い切り息を吸い込んでから、思い切り吐き出した空気量の量のこと。器械ではかります。）
- ▽肺門（気管支につながる肺の最小の部分）
- ▽肺葉（いくつかに分かれている肺の一つ一つ）
- ▽肺肝（「肺臓と肝臓」のことから、「心」「まごころ」の意味につかわれます。「肺肝を砕く」は、「真心をつくして努力する」ということです。）

俳

六年

画数 10
筆順
オン
クシ

俳 俳 俳
ハイ
ハイ

成り立ち



「常（ふつう）ではない」という意味を表すのに使う「非」と、「イ」とを組み合わせて作った字です。

「（ふつうの）人ではない」という意味の字です。中国では、「道化役者（ふざけた事をして人を笑わせる役者）」の意味に使われましたが、広く「役者」の意味に使われ、今では「俳優」という言葉になりました。

わが国では、昔から、「風流人（ふつうの人が楽しむ事よりも高尚な楽しみを楽しむ人）」の意味に使われ、「詩や歌を作って楽しむ人」を「俳人」と言うようになりま

使い方

▽ぼくは山中一郎という俳優に似ていると言われます。有名な俳優に似ているというのは、ちよつとうれいけれど、それだからかわれることもあって、それは迷惑です。
▽わたしのおばあちゃんは、俳句を作っています。本格的で、俳句も持っています。よく俳句の会に出かけて行きます。作る俳句はむずかしくて、よくわかりません。けれどおばあちゃんは楽しそうです。

熟語例

- ▽俳優（劇や映画に出演する人。役者）
- ▽俳句（五・七・五の十七音節から成る、世界一短い定型詩。和歌から連歌へ、連歌から俳句へと変化してできたものです。）
- ▽俳人（風流人。今では「俳句を作る人」の意味につかわれます。）
- ▽俳号（俳人の雅号。「俳名」とも言います。芭蕉・一茶などは本名でなく俳号です。）
- ▽俳画（俳句のようなおもむきのある、風流な絵。簡素で色彩も淡く、あつさりした絵です。）